横浜市 受付 28.6.23 市民局市民活動支援課

平成27年度事業報告書

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

1 事業の総括

20世紀初頭のアメリカの植民地時代に始まる入植政策や開発企業の進出で、生活基盤の農地や森を失うとともに、文化的少数派になったミンダナオ島先住民族の自立を支えて20年目、2015年度（平成27年度）も、会員や市民、助成機関によるご協力により、人を育て、熱帯林を修復する活動など、全5分野において、下段で報告のように、ほぼ事業計画に沿った活動ができた。

また、これらの諸事業実施に欠かせない現地パートナーとの協力関係も順調だったが、長期にわたる事業モニターを委託するには、PIHSやPFP等の自主財源を持たないパートナーについては、その持続可能な運営に対するサポートの必要を感じた。PIHSからは、その自主財源として循環型農畜産施設や助産所運営計画が示されていて、次年度の検討課題としたい。PFPにもマイクロファイナンスなどの自主財源計画があるが、過去に失敗した経緯もあり慎重に対応したい。

修道会を母体とし、自主財源を有する宣教組織CMIPは、私たちの支援を、最もニーズが大きい辺境の住民や子どもに繋げるパートナーとして貴重な存在であるが、認定法人化をめざす上で問題があり、これも持ち越し課題として引き続き対策を検討したい。

2013年5月末に活動を終了したチボリ国際里親の会(略称JOFPA)から引き継ぐ形で協働を開始したSCMSIについては、チボリ民族を始めとする先住民族の初等から高等教育までを担う私立の教育機関として、授業料収入の他、中等教育に関しては生徒数に応じて政府補助金も入っていて、資金面では当団体への依存度は大きくないが、1980年から続く日本の支援への評価は高く、信頼関係は継続できている。

また、2002年から13年間、製品購入に加えて、研修、活動拠点「伝統の家」建設、スタッフ給与補助等の支援をしてきたパートナー、チボリ民族女性の組合COWHEDについては、11月訪問時に、組合長から、自立度90%という自己評価を聞くことができて、私たちの「自立を支える」活動の励みとなった。

以下、医療・教育・農村開発・環境保全・女性自立の5分野の事業について、その成果、課題を報告させていただき、次年度の「持続可能な収入向上支援を通じて、先住民族の自立を支える」活動につなげたい。

2 各事業分野における活動報告

1）保健・医療

① CMIPと協働の事業：

前年度に続き、治療より予防に重点を置く指導、支援を実施した。CMIP校があるアトモロック、ラムアフス、ナブル地区では、トイレ、薬草畑、野菜畑の設置について、住民の指導に当たる教師の謝礼を予算化した結果、アトモロック校区（105世帯）については、各42%、31%、17%(12月現在)と、数字の上ではまだよくないものの、モニターや指導の実施を確認できた。

10月末のヘルス担当ジョジョさんの退職以降は、健康保険の加入指導なども、CMIP校の教師がその役割を引き継いだが、学校のない地区においてはジョジョさんが薬草普及を指導してきた母親クラブの多くは活動を停止した。以下は、ジョジョさん在任中の4−8月の支援実績である。

＜支援実績＞

CMIPクリニックでの対応患者数：55名（ノビシエートの地区代表者集会参加者への風邪薬処方含む）

巡回診療受益者：サムラング避難民緊急支援 40 名(4 月)、男児対象割礼処置 42 名(5 月)

小学生対象駆虫剤処方：アトモロック、ナブルの 294 名。

② PIHS と協働の事業：

2002 年の協働開始以降、大小の助成金を受けて、住民主導の健康な村作り活動を支援するとともに、地域ヘルス組合の自主財源創出の事業を支援、2015 年度も、ブラコンでは従来のヤシ屋根材に加えた薬用石鹸の製造販売活動を支援、バロンギスでの青年たち（事業で支援のハイスクール奨学生など）によるハーブ薬モデル農園事業を実施した（WE21 ジャパンみどり助成)。

＜支援実績＞

＊ ブラコンの石鹸製造販売は、ココヤシバージンオイル使用やバニグ編みミニケース入りなど商品価値の向上に努めて、他地域のヘルス組合や町のイベントでの販売により、給食、母親の識字及び保健研修財源に充当、各組合員の収入向上にも貢献している。

＊ バロンギスは、既に、耕運機貸出事業の収益で、自前の研修ができるようになった地区であるが、薬物使用増加も懸念される青少年の健全な育成活動のニーズがあり、モデル農園事業は、作業に参加する青年たちの組織化、研修参加者の増加に貢献している。ハーブ収穫などの成果はまだ十分でていない。

＜課題＞

過去の支援により、ヘルス活動の有力財源バニグ編生産が盛んになったトゥヤン地区は、行政による 3 年越しの支援約束、工房兼店舗新設が決まったが、多額の資金が入ることで、組合員間の結束に乱れや対立問題が生じた。 このような各ヘルス組合の課題に対応、指導する PIHS 本部に、専従スタッフを雇用する財源等がなく、上段の事業総括で触れたように、PIHS 自身、助産師施設の設立などによる自主財源創出を得ることが必要で、今後どう支えるか、当団体にとっての課題にもなっている。

2）教育・人材育成

フィリピンの教育制度改革の結果、ハイスクール在学期間が 1－4 年生の 4 年間から、7－12 年生の 6 年間に延び、5 年目（11 年生）からは、それぞれ大学予備コースと各種実技コースを選択するという方式になった。カレッジ部門で教育学部を新設したばかりの SCMSI 校は、この学制変更によるハイスクール年限延長、生徒数増加で、教室不足問題が深刻になり、当団体も床下スペース活用の 2 教室増設(会員寄付充当)を支援した。

教育年限が延びて、貧しい先住民族世帯の負担は増えたが、一方で、4P'政策のもと、最貧層については、ハイスクール卒業の 18 歳までは政府補助を受けられるようになって、現地の教育支援ニーズは、学費が高いカレッジ生対象奨学金の比重が高まっている。

＜支援実績＞

① 初等教育支援

＊ CMIP 支援地域のビラーン等貧困家庭の児童 24 名に年額約 3,500 円の奨学金支援。(CMIP と協働)

＊ CMIP 運営の小学校（分校含む 4 校）児童 660 人週 3 回の給食費補助 35 万円支援（CMIP と協働)

＊ 住民組合運営ﾌﾞﾗｸｰﾙ小(約 80 名）の運営と給食支援 43 万円（一部あしなが資金充当）(PFP と協働)

＊ SCMSI 校運営支援（3 小学校教師給与相当）324 万円と里子 22 名の授業料支援。(SCMSI と協働)

② 中等教育支援：

＊ ﾊｲｽｸｰﾙ生 25 名に年額 18 千円の奨学金支援(CMIP と協働)。

＊ SCMSI ﾊｲｽｸｰﾙ里子 31 名支援（SCMSI と協働)

③ 高等教育支援：

＊　ジェネラルサントスの GFI カレッジ在学 11 名に各年額 7 万円(医大進学準備コースの 1 名は年額 15 万円)の奨学金を支援、うち 3 名が卒業し、9 月の教師国家試験に挑戦の予定。2014 年度卒業の 3 名はナブル小の助教諭として働きながら、教師国家試験(LET)に挑戦したが 1 回目は不合格。3 月の 2 回目試験の結果待ち。(CMIP と協働)

＊　SCMSI ｶﾚｯｼﾞ里子 17 名の支援と、SCMSI 校出身外部ｶﾚｯｼﾞ生 11 名に年額 5.3 万円の奨学金支援(以上、SCMSI と協働)。2015 年度末卒業生は SCMSI カレッジ卒 2 名。就職先は未定。

＊ あしなが奨学金（ブラクール出身サルニさんのカレッジ奨学金補助金　年 5 万円）

＊ 医大生支援：DMSF(ダバオ医大)2 年のアンさん奨学金、年 25 万支援（CMIP 経由）

④ 看護師をめざす学生対象の JOFPA 基金：

JOFPA 基金 3 年目の 2015 年度は、PIHS 推薦ムスリム学生 2 名に加えて、SCMSI 推薦 1 名の計 3 名（うちムスリム学生 1 名は 7 月末で中退）に、1 人年額 13.5 万円の奨学金を支援。

3）農村開発及び環境保全の活動

山岳部先住民族の農村開発事業は、熱帯林修復の活動と重なる部分が多く、環境保全事業との区分けは難しいが、2015 年度事業のボルール村のアグロフォレストリー・モニターは、教育を受けたビラーンの青年たちによる住民組織育成の性格も強いため、農村開発事業に含めた。

以下は、2015 年度に実施した各種苗木の植栽、研修の実績である。

＜支援実績＞

① ﾚｲｸｾﾌﾞ町ﾗﾑﾀﾞﾗｸﾞ村ラムカニダン(6 月終了)とタヲル及びボロウ地区(7 月開始)における保護区計 10ha の在来種植林及び生産区計 60ha のゴム、バナナ、ｺｰﾋｰ苗木の植栽、理念技術研修、モデル農場見学を実施。6 月終了のラムカニダン地区には、ゴム苗木 4500 本、急斜面の在来種苗木植林 2500 本、コーヒー苗木 2400 本植栽完了。タヲル、ボロウ地区は 6 月完了に向けて事業継続中。(緑の募金助成・PFP と協働))

② ﾚｲｸｾﾌﾞ町タシマン村における保護区 10ha の在来種植林、生産区 20ha ｺﾞﾑ、果樹苗などの植栽と理念・実技研修は 9 月末に終了。20 世帯の緩傾斜地２０ha に、ゴム 2000 本、コーヒー2000 本、バナナ 2000 株を、急傾斜地約 10ha には、在来種 3000 本を植えた。(三井物産環境基金助成・PFP と協働)

2 年目事業として予定したドゥワルドは、治安他の理由で取りやめて、隣接のタクネル村タカヨン地区に変更、助成機関の承認をえて、同じく在来種や各種樹木作物の植栽継続中。(2016 年 9 月終了予定)

③ 農村開発事業に位置付けたボルールのゴム苗木生育モニター活動は、2014 年度事業(WE21 みどり助成)実施の過程で、組織内の対立が起きて 2 グループに分かれた。2015 年度は、組織再建よりも苗木の手入れ、管理を優先して、両グループ代表のダンディとボニファシオ(ともに元奨学生)にモニターを委嘱した。干ばつで枯死率は高かったが、生き延びた苗木のうち、生育の早いゴム苗は 2m 以上に伸び、将来の収入源として住民の期待は大きい。(自己資金事業)

4）女性自立支援の活動

① COWHED 支援：ネニータ組合長、ジェナリン・マネージャーのもとで、2015 年度も現地国内市場は堅調で、産業貿易省 DIT や観光省 DT 等の政府機関、ILO 等の国際機関も、民族の伝統継承、ハンディクラフト販売及びマイクロファイナンス事業による女性の収入向上など、チボリ民族女性の社会的自立を図っている組合として高く評価しており、11 月訪問時のネニータ組合長による自己評価は 90%自立達成だった。

2002 年から始まった当団体の各種支援は、ほぼその役割を終えたが、日本にも増えたティナラク織製品愛好者のために、また、日本の評価が現地女性の励みとなるために、今後も各種製品購入は続けたい。

② ビラーンの伝統織ナバルタビ支援：現地の伝統織及び刺繍技術継承者５名と事業管理者２名、計７名からなる NTP(Nabal Tabih Production)支援事業のうち、若手育成研修は２年前に終了したが、織手が希少な伝統織の制作を継続できるように、手当支給等最小限の支援を継続した。

＜支援実績＞

＊ 日本での販路拡大活動。フェスタ・バザー、大小 22 回参加。製品の仕入れ先、COWHED へ約 10 万ペソ/27 万円、ナバルタビ織グループ NTP へ３万ペソ/8 万円)を支払い、女性たちの収入向上に貢献した。

＊ COWHED の販売担当手当（年 3.2 円）、NPT 織手２名と事業担当手当(計年 15 万円)支払いで、現地組織の運営を支えた。

＊ COWHED 組合員の子ども（女子）２名のカレッジ奨学金支給(年 8.6 万円。１名は３月卒業)

５）広報・啓発の活動（国内の活動）と事務局運営

① 事務局体制の整備：前年度に引き続き、非専従スタッフ３名（うち１名は１月末付退職）で、会員管理、会計、イベント、会報、ホームページ等の広報活動を行った。なお、比重が大きい海外事業を、代表が兼務する無給専従者が担当しているため、人件費が実態に合わない問題については次年度改善の予定。

② ホームページ：お知らせ等更新はできたが、現トップページは、知りたい情報にアクセスしにくいという意見があり、次年度持ち越し課題となった。

③ 認定 NPO 法人化申請作業：現地パートナーの一つ、CMIP を通じての医療や教育支援が、特定の宗教への寄附とみなされて作業は中断。CMIP への委託事業である点を明確にする等次年度以降対応する。

＜活動実績 ＞

① 季刊「ビラーン通信」発行（81-84 号）・各 400 部。

② ホームページ月１回更新(お知らせ欄中心)

③ 年４回の活動報告会（5/1,7/25,10/31,1/9 に開催）

④ NGO フェスタ、バザー参加(ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ、よこはま国際ﾌｪｽﾀ、あーすﾌｪｽﾀかながわ他大小のイベント計 22 回でのミンダナオ島伝統的ハンディクラフト紹介、販売とパネル展示他広報活動

⑤よこはま国際ﾌｫｰﾗﾑ参加（2/6）テーマ「ミンダナオ先住民族の医療を支えて 20 年 ―成果と課題 ―」

注：CMIP（Catholic Mission to the Indigenous People, inc)
COWHED(Cooperative of Women in Health & Development)
PIHS(Pasasambao Integrated Health Service, Inc.)
PFP(Partners for First Peoples Foundation,Inc)
SCMSI(Santa Cruz Mission School Inc.)
BOSDA(Bolul Sustainable Development Association)
NTP(Nabal Tabih Production)

平 成 27 年 度 活 動 計 算 書

平成27年4月～平成28年3月

特定非営利活動法人ビラーンの医療と自立を支える会

Ⅰ 経常収益の部

（単位：円）

	科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
経常収益	受取会費（社員会費	324,000	262,500	61,500	500 円 x 12月 x 43人 他
	寄附・医療自立支援	624,000	642,000	▲ 18,000	1,000 円 x 12月 x 53人他
	寄附・教育支援	6,600,000	5,926,700	673,300	ﾁﾎﾞﾘ里子2.4万x129口（310万）,ｶﾚｯｼﾞ（33万）CMIP対象（140万）ﾌﾟﾗｸｰﾙ他34万、医大生他75万
	寄附・一般	2,200,000	3,743,660	▲ 1,543,660	教室整備3件120万、赤字支援3件90万、ｸﾘｽﾏｽ12万、他一般寄付（古切手、不用品換金分含む）
	（受取寄附合計）	9,424,000	10,312,360	▲ 888,360	
	受取助成金	3,004,000	2,904,046	99,954	三井106.4万、緑の募金145万、WE21みどり28万、地球環境基金（前年度事業清算金）11万円
	事業収益	260,000	287,869	▲ 27,869	ハンディクラフト事業収益
	雑収入	1,000	97	903	銀行受け取り利息
	経常収益 計	13,013,000	13,766,872	▲ 753,872	

Ⅱ 経常費用の部

	科 目	予 算	決 算	差 異	摘 要
事業費	医療・衛生事業費	880,000	775,274	104,726	CMIP: 10万ﾍﾟｿ/27万円、PIHS 18.6万ﾍﾟｿ/50.5万円（うち28万円は助成金充当）
	人材育成事業費	7,710,000	8,910,216	▲ 1,200,216	SCMSI（定期120万,ｶﾚｯｼﾞ奨学金27万他計149万ﾍﾟｿ/403万円。教室他支援40万ﾍﾟｿ/111万円） CMIP（奨学金54万給食8万、国家試験他計79万ﾍﾟｿ/215万。ナブル教室9万ﾍﾟｿ/27万円） PFP（ﾌﾟﾗｸｰﾙ・あしながｼ17万ﾍﾟｿ/47万円）、PFP経由（先住民校6万ﾍﾟｿ/16万円）、ｸﾘｽﾏｽ10万円 PIHS,SCMSI経由（JOFPA奨学金14万ﾍﾟｿ/38万円） CMIP経由（医大ｽｶﾗｰ9万ﾍﾟｿ/25万円）
	農村開発事業費	130,000	130,047	▲ 47	BOSDA組合ｱｸﾞﾛﾌｫﾚｽﾄﾘｰ事業フォローアップ手当2,000ﾍﾟｿx2名x12ヶ月
	環境保全事業費	2,750,000	2,877,829	▲ 127,829	ﾀｼﾏﾝ村1-2年目事業（三井物産環境基金）135万円、ﾗﾑﾀﾞﾗｸ村2-3年目（緑の募金）153万円
	女性自立事業費	190,000	208,552	▲ 18,552	COWHEDｽﾀｯﾌ手当と奨学金12万円、NTPﾅﾊﾞﾙﾀﾋﾞ織手支援他8万円
	広報啓発事業費	100,000	103,000	▲ 3,000	3イベント（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙﾌｪｽﾀ、あーすﾌｪｽﾀ、横浜ﾌｪｽﾀ）参加費、ホームページ担当謝礼ほか、
	予備事業費	100,000	0	100,000	
	事業費 計	11,860,000	13,004,918	▲ 1,144,918	
管理費	人件費	840,000	530,500	309,500	非専従スタッフ 3名 （1,000円 ×平均43.5時間 × 12月）
	通信費	250,000	208,919	41,081	NTT 12万、会報発送費他郵送料 8万円 その他
	旅費・交通費	150,000	147,885	2,115	非専従スタッフ3名交通費11万、現地モニター交通費他
	印刷・出版費	90,000	77,625	12,375	会報印刷平均 1、9万円 x 4回（7.6万円） ほか
	会費・会議費	50,000	53,368	▲ 3,368	国際協力NGOｾﾝﾀｰ（JANIC）・日比NGOﾈｯﾄ（JPN）・横浜NGO連絡会（YNN）・会費計4.5万他
	手数料	10,000	11,436	▲ 1,436	海外送金手数料ほか
	消耗品費	45,000	76,251	▲ 31,251	ﾌﾟﾘﾝﾀｰ1．4万、ｳｲﾙｽﾁｪｯｸｿﾌﾄⅠ万、インク代、印刷用紙、封筒、領収書用紙他
	備品・什器購入費	5,000	0	5,000	
	事務局賃借料	120,000	120,000	0	事務局家賃（1万円 x 12ヶ月）
	保険料	15,000	15,445	▲ 445	労災保険、海外旅行保険
	管理費 計	1,575,000	1,241,429	333,571	
	経常経費 計	13,435,000	14,246,347	▲ 811,347	

当期正味財産増減額	▲ 479,475
前期繰越正味財産額	2,251,505
次期繰越正味財産	1,772,030

平成27年度　貸　借　対　照　表

平成28年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラーンの医療と自立を支える会

科　　目	金　　額	
Ⅰ資産の部		
Ⅰ流動資産		
現金預金	3,183,030	
流動資産合計	3,183,030	
2 固定資産		
固定資産合計	0	
資産合計		3,183,030
Ⅱ 負債の部		
1 流動負債		
前受け金	1,411,000	
流動負債合計	1,411,000	
2 固定負債		
固定負債合計	0	
負債合計		1,411,000
Ⅲ 正味財産の部		
正味財産		1,772,030
(うち基本金)		2,251,505
(当期正味財産増加額)		−479,475
負債及び正味財産合計		3,183,030

平成27年度　財　産　目　録

平成28年3月31日現在

特定非営利活動法人 ビラーンの医療と自立を支える会

科　目	金　額	
Ⅰ資産の部		
Ⅰ流動資産		
現金預金		
現金手許有高	55,695	
普通預金 三菱東京UFJ銀行青葉台駅前支店	463,017	
三井住友銀行青葉台支店	459,479	
郵便貯金	1,975,729	
郵便振替口座	229,110	
流動資産合計		3,183,030
2 固定資産		
固定資産合計		0
資産合計		3,183,030
Ⅱ 負債の部		
1 流動負債		
助成金前受金	1,411,000	
流動負債合計		1,411,000
2 固定負債		
固定負債合計		0
負債合計		1,411,000
正味財産		1,772,030